

## ■国際シンポジウム「自閉症、言語、心の理論：20年の研究から見えてきたこと」のご案内

自閉症の特徴として、言語発達の遅れや言語使用（コミュニケーション）の困難があることが知られています。これまでの研究から、自閉症児の乳児期の言語発達の遅れは児童期の社会コミュニケーションの困難と関連していることや、心の理論に代表される自閉症児の社会認知能力が言語力に支えられていることがわかってきました。本シンポジウムでは、自閉症児の言語コミュニケーションと社会認知に関する基礎研究を長く牽引してこられたロンドン大学のフランチェスカ・ハッペ氏(国際自閉症研究協会会長)と岐阜大学の別府哲氏をお迎えし、過去20年間の研究を振り返りながら、よりの確な自閉症児の支援方法と今後の研究のあるべき姿を探っていきたいと思います。ご関心をお持ちの皆さんのご参加をお待ちしています。

### 【開催概要】

●日時：2015年7月26日（日）13:00-17:00（開場12:30）

●会場：東京学芸大学 S講義棟 4階 410教室

\*アクセス→<http://www.u-gakugei.ac.jp/access/>

（キャンパスマップの14番です）

●定員：150名（参加費無料）

●申込締切：2015年7月18日（土）

●プログラム：

12:30 開場

13:00 開会

13:15-14:55 講演1 Francesca Happe (University of London)  
THINKING ABOUT MENTAL STATES AND LANGUAGE IN  
AUTISM SPECTRUM DISORDER

14:55-15:10 休憩

15:10-16:10 講演2 別府 哲（岐阜大学）  
「自閉スペクトラム症の心の理解と支援－命題的心理化と直観的心理化  
の特異な機能連関」

16:10-16:30 指定討論 藤野 博（東京学芸大学）

16:30-17:00 ディスカッション

17:00 閉会

●講演の概要については、東京学芸大学国際教育センターホームページをご覧ください。

<http://crie.u-gakugei.ac.jp/news/2015/05/post-7.html>

●ハッペ氏の講演は英語ですが、日本語の解説と配布資料があります。

●申込：氏名、ご所属を明記の上、[726matsui@gmail.com](mailto:726matsui@gmail.com)宛にメールにてお申し込みください。件名「国際シンポジウム申し込み」とし、本文に氏名・所属をご記入ください。

●お問い合わせ：東京学芸大学国際教育センター 松井智子 研究室 ([726matsui@gmail.com](mailto:726matsui@gmail.com))

●企画：東京学芸大学国際教育センター 教授 松井智子

●共催：東京学芸大学国際教育センター